

4-1-21 MEセンター

1.概要

MEセンターは、病院で使用する輸液ポンプやシリンジポンプ、心電図モニター、パルスオキシメータなどの医療機器を管理する部署として開院時に開設された。今年、臨床工学技士が1名増員によって3名となり、委託ME専任スタッフ4名と併せた7名で約1,400台の医療機器を管理している。

日常業務は、医療機器の貸出し、回収、清拭、点検、保管という工程の中に安全管理体制を取り入れて、機種ごとの定期点検を計画的に実施している。その他、外来や病棟からの医療機器の故障点検依頼も迅速に対応しつつ、開院時から継続している医療機器の貸出し搬送と使用後の医療機器回収業務は、医師、看護師、看護助手の業務軽減につながり評価も高い。

今年度は、各部署管理の医療機器の定期点検と、経年劣化した医療機器の後継機種の更新を行なった。安全な医療を提供するためには、各部署管理の医療機器もMEセンターで一元管理が最適との判断から、手術や検査で使用される麻酔器、NICUで使用される保育器、病棟の簡易無菌装置などを定期点検計画に追加して実施した。医療機器の更新は、移設の医療機器を含めた全医療機器の更新計画から作成し、経年劣化の進んだものを上位更新機として取りかかった。考慮した点として、第1に医療事故を起こさない安全な機器であること。第2に使いやすく故障がない機器であること。第3として点検がしやすくメーカーの対応が良いこと、が挙げられる。

また、MEセンターの役割は医療機器の安全管理、医療スタッフへの医療機器安全使用教育、臨床工学的技術の提供等が上げられる。それぞれの業務は独立することなく相互に連携することで安全な医療の提供と向上に関与する中で、毎月のように中央管理医療機器の追加依頼、医療機器の説明会依頼、病棟や外来からの業務支援依頼とMEセンターに求められる業務依頼は増加傾向にあり役割の責務を感じている。

成育医療センターには多くの医療従事者とさまざまな医療機器を必要とする現状において、より安全に医療機器が使用できる保守管理体制と安全な医療機器の環境づくりを求められている。高度先進医療にも支援できる医療機器は点検が行き届いた医療機器はもとより、性能の保持も求められる厳しい環境の中においてもさまざまな依頼に応えられる医療機器管理センターとして日々努力している。

2. MEセンター業務

2.1 業務内容

- ・貸出し業務 電話依頼
- ・回収業務 電話依頼及び午前・午後定時回収
- ・点検・整備 日常点検・定期点検・故障点検、回収後の清掃・消毒
- ・保管 専用棚、場所に貸出し可・不可の表示
- ・院内修理 修理可能な簡単なもの
- ・院外修理 院内で修理不可能なもの

2.2 ME機器の貸出し回収件数

- ・貸出し件数 : 14,413件/年 901件/月平均
- ・回収件数 : 14,341件/年 1,195件/月平均

2.3 ME機器の故障・院内修理状況

- ・故障件数 : 639件/年 53件/月平均
- ・院内修理件数 : 323件/年 26件/月平均

2.4 MEセンター活動内容

安全対策の啓発	4月：新採用者研修・新採用者看護師のME機器技術研修
	5月：人工呼吸器説明会（病棟看護師単位） 新採用者看護師の人工呼吸器研修会
	7月：HF0呼吸器説明会
	8月：新生児用人工呼吸器説明会
	10月：ペースメーカー説明会（看護師対象）
	12月：取扱い説明書・添付文書配布（病棟単位）
	2月：貸出医療機器の基準作成
医療機器の管理	5月：パルスオキシメータシュミレータ導入 患者加温装置 光線治療器 導入・手術用加温装置導入・
	6月：携帯PCAポンプ管理開始・
	7月：輸液ポンプチェッカのデモンストレーション
	8月：麻酔器気化器定期点検完了・保育器定期点検完了
	9月：心電図モニター定期点検完了・簡易無菌装置のフィルター交換
	11月：低圧持続吸引器更新・輸液ポンプチェッカ追加導入
	12月：パルスオキシメータ更新・簡易無菌装置天板ストッパー取り付け
	2月：経腸栄養用ポンプ追加導入
その他	4月：外出、外泊時の医療機器貸出し確認書運用開始
	6月：パルスオキシメータ技術講習会受講（臨床工学技士） ：委託ME専任スタッフ2名修理業受講
	5月：臨床工学技士1名非常勤採用
	10月：臨床工学技士1名定員採用
	1月：無停電UPSバッテリー交換・低圧持続吸引器経年劣化品廃棄 ・胎児外科手術用回路更新
	2月：新生児用人工呼吸器バッテリー交換
	3月：全人工呼吸器定期点検完了 人工呼吸管理チーム発足